

(2) パネルディスカッション形式の意見交換②



荒川町で新たに入居してきた人たちは、
コミュニティの中でどう関わっていますか？

若い世帯が入ってきて、青年会にも加わってもらっています。
新たに住まわれた人が中心を担ってくれるのは、町内会としても
非常にありがとうございます。



商店街としてどうしていきたいですか？
発信したい魅力はありますか？

商店街はイベント以外にほとんど活動がありません。
組合員も増えておらず、新しい魅力づくりに苦戦しています。
新規加入店の多くは夜のお店で、昼間のまちづくりへの関与は
少ないです。



福永町で実施している「茶話会」は、
どうやって運営されていますか？

コロナで高齢者同士の交流が減ったことをきっかけに
町内会館で実施しています。
健康リーダーが中心になって運営しており、当初はお茶会でした
が、現在は食推や運推が栄養指導・健康運動なども行っています。
毎月実施予定で20人くらいが参加しています。



天王町は自分のまちのプライドをすごく大切にされていて、
団結力もあると感じます。
今後、天王町にどうなってほしいと考えていますか？

コミュニティの維持は難しくなっていると感じています。
維持していくうえでまちなか居住はチャンスだと思います。
奇抜なことをするのではなく、維持していくことが大切です。
併せて、素晴らしい町内であることを発信できれば、
おのずと人は来てくれると思っています。

～アドバイザーからのまとめ～

- ・まちづくり方針が重要なので、作成する際は多くの
方に関わってもらってほしい。
- ・まちづくり方針は**将来の羅針盤**となるので、作成は
楽しみながら取組んでもらいたい。
- ・支援制度は充実していると思うので、他の町内会の
皆さんもまちなか居住推進地区認定に向けた取組を
検討してほしい。



発行 上越市まちなか居住推進事業事務局(窓口:都市整備課 市街地整備係)

E-mail:toshi-shigaichi@city.joetsu.lg.jp

Tel:025-520-5764/Fax:025-526-6112

上越市 まちなか居住

検索



【発行年月】
令和7年11月

上越市 まちなか居住推進事業

(直江津地区)

ニュースレターVol.10

「まちなか居住推進事業」とは？

まちなかに“これからも住み続けたい”“新たに住んでみたい”“また訪れたい”と思う人が自然に集まるまちを目指す**新しいまちづくり**の取組です！
本紙やホームページを通じて事業の取組内容や進捗状況を定期的にお知らせしています。

令和7年9月16日に直江津地区の座談会を開催しました

まちなか居住推進事業の取組報告や情報共有を目的として毎年開催している「座談会」をレインボーセンターで実施しました。

座談会では、令和5～6年度に取組んだモデル事業について、**モデル地区3町内会より取組報告**がありました。

また、まちなか居住推進地区の町内会（天王町・福永町）と、推進地区を目指す町内会（あけぼの・荒川町）を対象とした**パネルディスカッション形式の意見交換**を行いました。



司会：塙（らち）正浩 氏
(まちづくりアドバイザー)

モデル地区町内会からの
取組報告



パネルディスカッション

天王町
角澤会長
福永町
保坂会長
あけぼの
佐藤会長
荒川町
小関会長
都市整備課
北島参事

市からの取組報告



(1) モデル地区3町内会からの取組報告

天王町

- ・まちなか居住推進事業がはじまった当初、地域政策課からも町内会の活性化についての話があり、何とかしないといけないと思った。
- ・行政との関係は良くて損はない。
- ・モデル地区としてワークショップを実施してみて、大きなテーマではみんなでまとまるのは難しいと感じたが、最終的にはまちづくり方針としてまとめることができた。
- ・自分の町内はどこにも負けないという思いが大事。



角澤会長

福永町

- ・空き家の有効活用を考えているタイミングでまちなか居住の話があった。
- ・ワークショップでは町内会役員だけでなく、様々な立場の人に呼びかけ参加してもらった。
- ・地元の不動産業者から、まちなか居住推進地区を重点的にセールスしたいと話があった。不動産業者が味方については大きい。
- ・推進地区の認定に向けては、行政の協力もあるのでそこまで負担に思わなくてよい。



保坂会長

あけぼの

- ・高齢者世帯が多く若手が少ない。商店街は空き店舗が多い。
- ・あけぼのは借地の家も多い。
- ・青年会には、子どもたちの“あこがれ・模範”であってほしいと伝えている。そういう青年会の姿を見せてることで、いずれ子どもたちが大人になった時に、あけぼのに戻ってくることにつながると思う。
- ・商店街の活性化とまちづくりの両輪が必要。



佐藤会長

(2) パネルディスカッション形式の意見交換①



司会

推進地区になってみてどうですか？

当町内は、モデル事業で実績がありました。
不動産業者も情報をつかんでおり、メリットはあったと思います。



司会

不動産業者が積極的に動いてくれました。
空き家の片付け支援は、新たな人の入居にもつながり良かったです。



天王町



司会

町内会の存在価値の向上や、魅力あるまちづくりの手段としてまちなか居住は必要と感じました。
取組が住民の意識改革にもつながると思っています。



福永町



司会

空き家に苦慮しており、どう対策をしたらよいか分かりませんでした。
価値のある空き家をリノベーションすれば、
新たな人が居住して将来の人口増につながると思います。



荒川町



司会

空き家が一番の課題で、住める空き家が意外とありません。
更地に新築する補助や、防砂・防風柵を設置する補助など
があっても良いかもしれません。



天王町



司会

間口が狭く、中々まとまった土地が少ないです。
ワークショップの際は、意見が偏らないように各年代の人や
移住してきた人にも入ってもらいました。



福永町



司会

町内でのまちなか居住推進事業の認知度が低いです。
問題を共有してみんなで町内をどうしていきたいか
考えていかないといけないと思っています。



あけぼの



司会

まだ取組をはじめていないため課題は分かりませんが、
まずは町内会役員の事業認知を進めており、
ワークショップも予定しています。



荒川町



司会

モデル事業はテストケースとして問題点を洗い出す目的もありました。今後も皆さんと対話を続け、より使いやすく効果的な制度になるよう見直しを図っていきたいと思います。



都市整備課